



## 昼休みのお仕事 タブレット委員会

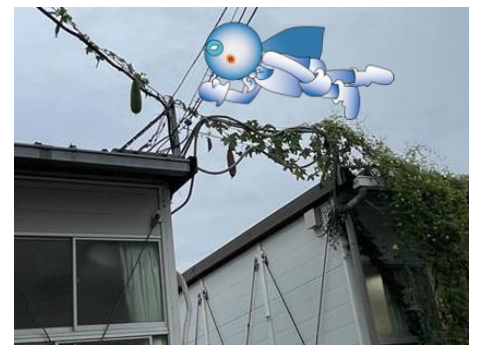
給食の時間に、「タブレットのシールが剥がれている人は、児童会室に持って来ててください。今日は〇年生です。」という放送が流れてきます。今年から発足した、タブレット委員会は、タブレット番号のシールの張り替えをしてくれます。これは、タブレットの点検のときにタブレット番号のシールが剥がれていたら誰のかわからなくなり困るので、自主的に行ってくれています。シールの貼り替えの日



には、事務室からテプラを借りて来て、児童会室でシール番号を入力して貼り替えてくれています。日によっては一度にたくさんのタブレットの貼り替え作業をしなければなりません。委員長の勝木さんは、「みんなのために、シールの貼り替えをしています。たくさんの方が持って来てくれたら、役に立っていることが実感できて嬉しいです。」と言っていました。このように、帯西では委員会活動で学校のみんなのために頑張っている子供たちが多く、学校が活性化し、みんなが「わくわく」に向かっている雰囲気醸成されています。

## 学校百景⑳ ど根性ヘチマ

毎年この時期になると、4年生が理科の観察のために育てているヘチマが最後の成長を見せてくれます。責任をもって水やりをしている子供の愛情を受けて、ヘチマ棚に納まるヘチマもいれば、どんどんつるを伸ばしていくヘチマもあります。ヘチマは、帯西では、グリーンカーテンとしての役割も果たしてくれています。



ヘチマの原産地は西アジアの熱帯地域と言われています。熱帯地方の植物のため、耐暑性が強い反面、寒さには弱く、冬を迎える前に枯れてしまいます。ヘチマは、「糸瓜」と呼ばれることもあります。ヘチマの実を乾燥させると糸がたくさん絡んだように見えることからこの名が付いたと考えられています。また、沖縄で「ナーベラー」とも呼ばれています。ヘチマでつくったたわしが「鍋洗い」に利用されていたことに由来しているそうです。たわしの用途以外にも、ヘチマの茎からとれるヘチマ水は、昔からお肌のお手入れに使われてきました。現在でも、オーガニック化粧品を好む方の中で親しまれています。

今年のだ根性ヘチマもやがて枯れて落ちてきます。その種を回収して、また次年度の4年生が大切に育て、命を受け継いでいってくれることでしょう。